診察歴や個人情報　電子管理

京都市にあるNPO法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター（以下、SCCJ）は、2008年6月より個人向け健康情報管理サービス「ポケットカルテ」、2011年1月より1枚のカードで複数の病院や診療所を受診できる「地域共通診察券（すこやか安心カード）」の取り組みを行っている。このサービスを考案・企画・開発した、独立行政法人国立病院機構京都医療センター（京都市）の北岡有喜部長に話を聞いた。

北岡有喜部長

▶すこやか安心カード

簡単に控除明細作製可能

――ポケットカルテの概要、特徴を教えてください。

北岡　「ポケットカルテ」とは、病院や診療所の検査結果や処方内容を管理するマイカルテ、医療費の管理、病院の検索などを行うことができるWEBサービスです。会員登録及び利用は無料で、携帯電話やPHS、パソコンがあれば全国どこからでも閲覧することができ、現時点で全国3万人ほど利用していただいています。

このサービスの特徴は、医療機関などが発行する領収証に印字されたQRコードを読み取りポケットカルテに取り込むことで、医療費控除明細を簡単に作成することができます。

総務省の統計を分析すると、以前は2人以上の世帯の約半数が、煩雑な手続きのため医療費控除の恩恵を受けていないことがわかりました。2008年にe―Taxにより手続きが簡素化。それをきっかけにこのサービスが総務省のユビキタス特区事業に選定された経緯があります。

既に、領収書にQRコードを印字している調剤薬局は都市部を中心に全国約600店舗ほどあります。顧客はQRコードのシステムを取り入れている店舗を利用するので、薬局も必然的に取り入れるようになります。

――地域共通診察券は患者、病院双方とも負担が軽くなる仕組みですね。

北岡　地域共通診察券は、利用者の氏名、生年月日、保険者番号、今までに受診したことのある医療機関の診察券番号を30件記録することができます。地域に限らず対応する医療機関であれば、1枚の診察券で複数の医療機関を受診できるのが特徴です。SCCJの調査によると、利用者1人当たり約4・6枚の診察券を持つことがわかりました。現在診察券が利用できるのは、京都府内の総合病院や診療所中心に49ヵ所で、参加機関は少しずつ拡大しています。

またこの診察券は、ポケットカルテと連動しています。医師にとっても、診察前に受診履歴やアレルギーなどの個人情報が確認できるのは、時間の削減につながるだけでなく、医療事故を未然に防ぐことができる可能性もあります。蓄積されたデータを統計解析することで、エビデンスに基づいた良質な医療を提供することができます。

――セキュリティの面が課題だと思います。

北岡　カードの読み取りに特殊な暗号技術を使っており、容易に解読できない工夫をしています。診察券の情報は病院のデータセンターにすべてあり、中に埋め込まれたチップには通常の磁気カードや紙の診察券と同等の情報しかないので、万一落としても安心です。

逆に、大規模災害が起こった際、情報を管理できることが強みになります。被災地ではカルテなどの記録が失われ、アレルギーや禁忌薬を把握できず、診療には非常に苦労しました。クラウド型サービスであるポケットカルテではこのようなことはなく、通信が確保できればスムーズな医療を提供することができます。

――今後の展望を聞かせてください。

北岡　ポケットカルテを全国に普及させることです。10月1日よりジェイコムウエスト（大阪市）京都みやびじょん局（京都市）と共同で、J：COMのケーブルTVでポケットカルテが利用できる試みが始まり、随時サービス提供エリアの拡大や商用化を行います。

そのためにはさらにデータの蓄積を重ねることが必要です。今後は家から診察の予約や、診察結果・検査結果などを確認できるシステムも作りたい。データの一括管理を行い、シームレスに患者と介護・医療の連携を行うことが目標です。

サ高住　地域包括ケア整備を

高齢者住宅財団　多世代交流で役担う

㈳高齢者住宅財団（東京都中央区）は、「サー客価値の創造～」と題して講演し、地域包括ケア問題提起した。

「入居を決めた高齢者の生活利便施設も周囲に設けるとともに、介護保険外のサービスも充実させていく必要があると語った。

次に社会福祉法人仏子園の雄谷良成理事長が登壇。金沢で展開するサ付宅、児童入所施設があり、多世代交流が図れる環境となっている。「施設の在り方を変えるのではなく、どんな高齢者でも受け入れられるように地域自体が変わっていかなくてはいけない。障害者・

◀当日の様子

神戸で外出支援　リピーター8割

しゃらく

神戸市を中心に外出支援を行っているNPO法人しゃらく（神戸市須磨区）。ひと手間かけた利用者との信頼関係づくりが、利用者のリピートに繋がっている。

同法人は2007年設立。その後、150名の要介護者を対象に旅行に対する意識調査を実施したところ、6割の高齢者が「旅行に行きたい」と思っていることがわかった。「旅行に行きたいと思っていても、ペットの世話や自分の身の回りの管理に不安を感じ、外出に自信がない高齢者が多く、外出支援のニーズの高さを感じました」（小倉譲代表）これまで冠婚葬祭や墓参り、国内・海外旅行等の支援を行ってきた。

「外出を通じて、利用者に自信を持ってもらいたい。何事もなく旅行を終えるためには、スタッフと利用者の信頼関係が大事」という小倉代表。外出当日までに4回ほどアセスメントを行い、信頼関係を築いていく。食事や排せつの時間、身体の様態を把握するために、要介護者であればケアマネやヘルパーに同席してもらい、その高齢者の介護も体験する。「見知らぬ人に介護してもらうことを『申し訳ない』と思う利用者の気持ちを無くすためにも、なるべくじっくり時間をかけて準備をしていきます」（小倉代表）

現在、神戸のほか関東からも依頼を受けるほどの実績を重ねているしゃ

・利用者の満足度アップに
デイサービス等の施設の方もお気軽にお問合せください
後継者不在